

単 元 名	ソフトバレーボール	配当時間	9時間
単元の目標	(1) 互いに協力し、役割を分担して練習やゲームをしようとする。また、勝敗に対して正しい態度をとろうとする。 (2) 自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたり、ルールを工夫したりすることができる。 (3) 防御から攻撃への連携プレーを生かしたゲームをすることができる。		
単元を構想する上での留意点	ソフトバレーボールは、軽くて柔らかいボールを使用し、ネットをはさんで攻撃を組み立て、または防御を工夫してボールを打ち合うゲームである。高学年で初めて行うこの種目の第一の特性は、ラリーを続けることであると考え。そのため、本単元では、レシーブを中心とした基礎技能をドリルゲームなどで楽しく身に付けさせ、ラリーを続けることができる練習方法やルールの工夫を行う。		
単元展開例			
準 備	ミニソフトバレーボール、ビーチボール、学習資料、学習カード など		
学 習 活 動		留 意 事 項 な ど	
1 ソフトバレーボールのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 チームにあった作戦を立て、みんなで協力して練習やゲームをしよう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 ○試しのゲームをし、めあてをつかむ。 2～4 ソフトバレーボールの基礎的な技能を身に付け簡単な作戦を立ててゲームを楽しむ。(ねらい1) ○ドリルゲームをする。 ・2人組でのパス。 ・ネット越しでの乱打 など ○ゲームの進め方の確認をする。 ・ルール ・マナー ・対戦相手 ○チームのめあてや作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 ・めあて ・作戦 ・ルール ・マナー など		・ネットをはさんで、攻撃を組み立てたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームの特性を理解させる。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・1チーム1～2試合行う。 ・1試合7分程度で行う。 ・レシーブ、パスを中心とした基礎技能習得のためのゲームを行う。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる。 ・ルールや場の例 攻撃回数は3～5回 ワンバウンド可 バドミントンコートを使用 など ・めあてを立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームのめあてにそった動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 評 チームにあっためあてをもって練習する活動を通して、「思考・判断」を評価する ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。	

5～7 チームにあった作戦を立て、ルールを工夫してゲームを楽しむ。(ねらい2)

- ドリルゲームをする。
- ゲームの進め方の確認をする。
 - ・ルール ・マナー ・対戦相手
- 対戦相手と、ルールについて話し合う。

○チームのめあてや作戦を話し合う。

- 第1ゲームをする。
- 反省し、練習する。

- 第2ゲームをする。
- 反省し、まとめをする。
 - ・めあて ・作戦 ・練習方法 ・ルール など

8～9 ソフトバレーボール大会をする。

- リーグ戦でゲームをする。
- 第9時は、単元のまとめをする。

- ・同じチームと2ゲーム以上行うことを知らせる。
- ・「ねらい1」の学習をもとに、相手チームとの話し合いでルールや場の工夫がうまくいっているか確認する。
- ・工夫したルールや場の例
 - 返す回数を決める
 - 1人続けて2回までしか触れない
 - サーブはどこから打ってもよい など
- ・めあてを立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。

- ・ゲームの結果から、チームのめあてにそった動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。

- 評 チームにあっためあてをもって練習する活動を通して、「思考・判断」を評価する。
- ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。
- ・練習の成果を確認させる。

- ・チームに合った作戦を立てさせる。
- 評 ゲームを通して、「技能」を評価する。
- ・チームでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。